



暦は立春。受験シーズンの真っ只中、教室には受験生たちの静かな執念が満ちています。Aが瞬時に答えを出す時代だからこそ、今、泥臭く悩み、自らの頭で考え抜く子供たちの姿は、何よりも尊く、力強く映ります。

結果以上に、この冬に培った折れない心(レジリエンス)こそが、これからの不透明な時代を生き抜く本当の力になる。

私たちはそう信じています。

保護者の皆様、今はどうか、温かい飲み物のような「安心感」でお子様を包んであげてください。

その安らぎが、最後の一步を支える勇気へと変わります。

春は、もうすぐそこ。最高の結果を信じて、共に最後まで走り抜けましょう。



岩永倫実くん **合格おめでとう!!**

●清風中学[理Ⅲ6か年] ●明星中学[特進]

塾長の呟きブログ

## ●努力が残したもの...

教室の空気が、少しだけ変わってきました。張りつめていた時間が、静かにほどけていくような、そんな感覚です。朝の冷たい空気の中にも、わずかに春の気配が混じり始め、教室には、これまでとは違う静けさが流れています。この一年、生徒たちはそれぞれの目標に向かって、自分なりの歩幅で歩き続けてきました。順調に進んだ日ばかりではなく、思うように手応えを感じられない日も、立ち止まりたくなった瞬間もあったはずですが、



それでも机に向かい、考え、続けてきた時間は、決して短いものではありません。受験というものは、ときに残酷です。同じ教室で、同じ時間を過ごしてきた仲間同士でも、結果が大きく分かれることがあります。努力の量や気持ちだけでは測れない現実が、確かに存在します。その事実に向き合ったとき、自分の積み重ねを疑いそうになる瞬間もあるでしょう。しかし、結果が分かれたからといって、その時間の価値までが分かれるわけではありません。むしろ、その過程をどう受け止め、次にどうつなげていくかによって、その後の成長は大きく変わっていきます。学びは、一度きりの勝負で終わるものではないからです。今、受験を終えた生徒もいれば、これから本番を迎える生徒もいます。高校受験、大学受験と、まだ緊張の時間の中にいる人も少なくありません。先が見えない不安の中で、「自分はこのままで大丈夫なのか」と問いかけている人もいることでしょう。そんなときに思い出してほしいのは、これまで積み重ねてきた日々そのものです。誰かに言われたからではなく、自分で机に向かった時間。うまくいかなかった、もう一度やり直そうとした瞬間。その一つひとつが、本番の一日を支える確かな土台になっています。努力というものは、いつも分かりやすい形で答えをくれるとは限りません。目に見える成果が出る前に、人の内側だけが、静かに変わっていくこともあります。集中する力、踏みとどまる力、不安と向き合いながら前に進む経験。それらは、合否や順位よりも先に、その人の中に確かに残っています。これから試験に向かう人へ。今は、結果のことを考えすぎなくて大丈夫です。今日の一問、今日の一時間を、丁寧に積み重ねてください。それができているなら、あなたはすでに、やるべきことをやっています。保護者の皆さまにとっても、この時期は落ち着かない時間だと思います。結果が近づくほど、声をかける言葉に迷う場面も増えるでしょう。子どもたちは、評価の言葉以上に「変わらず見てもらっているか」を敏感に感じ取ります。言葉を足しすぎず、これまで通りの距離で見守ることが、次の一步を踏み出す力になることもあります。受験は、人生の通過点です。けれど、その通過点に向かう中で身につけた姿勢や経験は、次の学び、次の挑戦へと、確かにつながっていきます。今はまだ見えなくても、積み重ねてきた努力は、これから始まる新しい時間を支える確かな土台となっていくはずです。